



ワイカンバス旅行記

文・写真…大塚玲央(J Net Travel)
Text & photo by Otsuka Reo

「大きな体、つぶらな瞳、長い鼻」。いつの時代も変わらない動物園の人気ものは日本でもインドネシアでも象(インドネシア語でガジャ)。動物園以外でもこの人気ものとお出会うのがインドネシアの魅力だ。「農園に象出現」「象が畑を荒らす」など野生の象がニュースになることも珍しくないインドネシア、これももとはといえばジャングルの乱開発によるエサの激減や生活環境の変化など人間が原因。ならば象を保護して人間と共存できる環境を作ろうという試みがスマトラ島南部ランプン州のワイカンバス国立公園で続けられていると聞き、象と間近に触れ合える旅にでかけた。

ジャカルタのスカルノハッタ空港から国内線のガルーダ航空機で約45分。着陸したのは滑走路脇を歩いてターミナルまで移動するという州都バンドルランプン空港だった。ランプ

ン州を訪れるのは初めてだが、照りつける太陽の暑さがジャカルタのそれと比較にならない。空港にはドライバーが我々をピックアップするために待機してくれている。スムーズな旅行のためにも、ドライバーとレンタカーを事前に手配することをお勧めしたい。空港から車で走ることおよそ2時間、町並みの中には象の石造やオブジェ、お土産品が数多く並ぶ。ランプンの人々は、象を保護し、観光資源として活用する国立公園の「象の学校」に大きな期待と誇りを持っていることがわかる。アチエの地震津波災害の時には、メダンの訓練施設から駆けつけた象による瓦礫の撤去や捜索活動も行われるなど、象が大活躍したという。

“象の像”に迎えられて国立公園のゲートをくぐると、そこはもう「エレファントワールド」。木立の中や広場など敷地内のあちこち



に象が歩いている。ここワイ カンバス国立公園は、象の育成と密猟からの保護を目的に1985年に設立され、1990年に象のトレーニングセンターとして一般公開されるようになってから、今日まで多くの観光客に象と触れ合うひとときを提供し続けている。現在1,300平方キロメートルの広大な敷地内に66頭の象と60余名のレンジャーがおり、労働力として活躍できるようにと材木を運ぶ訓練や、観光客を背に乗せるため静かに歩く訓練を日々受けている。公園内に外国人観光客のためのレストランがないため、お弁当を持参して、この訓練風景を見ながらのピクニックランチをお勧めしたい。

この国立公園では人気者を間近に見るだけでなく直接「触って、乗る」ことができる。「エレファントライド」はレンジャーと二人で象の背中に乗ってジャングルや川の中など道な

き道を散歩するアドベンチャーだ。30分のコースと、ジャングルのより奥深くまで入る1時間のコースがある。地上約4メートルの「象目線」から見るジャングルは見通しがよく、「のっしのっし」と進める歩みは心地よいリズムと重厚な力強さを感じさせてくれる。まさに気分は「象になった私」。

また、象のアトラクションショーも行われている。屋外のステージで行われるこのショーでは、また違った象の一面を垣間見ることができる。会場にダンДУット音楽が流れだし、象がリズムに乗りながらステージへと出てくる。体を左右に大きく振る象、長い鼻をしなやかに振りながら足踏みする象、思い思いに体を動かす象はとても愛らしい。レンジャーが自分の体のすべてを象の鼻一本に委ねているところからは、彼らがとても強い信頼感で結ばれていることが伺える。



観客が出した足し算や引き算の問題の答えを、5枚のボードから鼻で器用に選び出し、出題者の元まで届けてくれるパフォーマンスもある。

そして、最後は象たちのサッカー。通常の5倍ほどの大きさのボールをゴールに蹴りこんでいく。あの大きな体からはとても想像できない足の速さに、観客席からは歓声があがった。

ショー終了後、遠くの丘陵に見える象の群れや象の水浴びなどを見ながら、のんびりとした時間を過ごしていると、厚い雨雲が上空を覆った。時計の針は午後3時半を回っていた。別れを惜しむような象の目に送られてランプン市内に戻る途中、地元料理のレストラン「AGAM」に立ち寄った。ここでは、鶏と魚を中心にしたスマトラ地方料理が味わえる。

中でも、パレンバン直送のBAUNGという白身魚を使ったスープは、辛味と酸味が効いていて、疲れを吹き飛ばしてくれる美味しさであった。ジャカルタではBAUNGを味わえる場所が少ないので、この機会にぜひ味わってみて欲しい。ランプン市内のホテルまでは国立公園からおよそ3時間。ゆっくりと体を休めて、次の日に備えたい。

旅の二日目は、ランプン市内から東南にあるパシルプティ海岸に向かった。道沿いには石油やガスなどの貯蔵施設や、造船工場が立ち並び、石炭を内地に輸送する全長900mにもなる貨物列車と並走する。車でおよそ40



分、透明度の高い海の向こうにまるでロンボクのギリ3島を髣髴させる三つの島がみえてくる。3島とも個人の所有物となっているが、そのうちの1つチョンドン島にはボートで渡ることができる。チョンドン島は周囲を回るのがボートで10分ほどしかかからない小さな島で、島の反対側が断崖絶壁になっていることもありロッククライミング愛好家がしばしば訪れるという。島の周囲の海は、波もほとんどなく、釣りやスノーケリングに興じることもできる。海の透明度はまるでガラスのようで、海底のサンゴ、色とりどりの魚が、手に取るように見える。島に上陸すると、小さなお土産屋が一軒あり、顔の皺に歴史が刻み込まれたような女性が出迎えてくれる。一週間に一度生活物資などを船乗りが持ってくるものの、それ以外は島で弟と二人で暮らし



ている。電気も通ってない小さな家屋で、ゴザをひき寝泊りしているという。起きたいときに起き、食べたいときに食べ、寝たいときに寝る、そんな生活から見えてくるのは時の流れに身を任せた自然な生き方。ある意味で素晴らしい羨ましくもある。

この島で鮮やかなサンゴのお土産を見つけた。サンゴのほかにも貝を加工した灰皿などが軒先にあるが、すべてお二人の手作り。サンゴのオブジェを手に、帰りのボートに乗り込み島を後にする。

パシールプティの海岸から市内へ戻る道沿いにもお土産屋はあるものの、クリブickというお菓子と貝殻加工製品が数点ある程度。ランブン州特産の織り物を買うなら市内の「NINDA Art Shop」。キーホルダーや箸置きといった小物から、指輪やピアスなどのアクセサリー、サロンやパティックといった布製品まで種類豊富に取り揃えている。

特に織り物は、規則的にほつれているように見える織り方を混ぜ込んである独特なものから、伝統的な刺繍布まで数多く並んでいる。象のデザインが可愛いストールは「エレファント ワールド」での至福の時を優しく包み込んでくれるだろう。

大きくて優しい象に会い、自然と共に生きる女性を訪ねる、そんな忘れられない思い出を作りに出かけてみませんか。



ワイカンバスツアー 1泊2日

行程

1日目

ジャカルタ発ーバンダルランブン着ーワイカンバス国立公園
ー夕食ーホテル

2日目

朝食ーパシールプティ海岸ーチョンドン島ー昼食ー
お土産の買い物ーバンダルランブン発ージャカルタ着

料金

お1人様 RP. 2,400,000～ + VAT1%

含まれているもの

- ・ガルーダ航空 ジャカルターバンダルランブン
往復航空券(Bクラス)・エアコン完備のプライベート送迎車
- ・ドライバー・ガソリン代、駐車代
- ・Novotel Lampung Hotel 1泊

お問い合わせは

PT. J NET TRAVEL

TEL : (021)5790-0481 FAX : (021)5790-0482

Email : reo@jnet.co.id(大塚)、nobuko@jnet.co.id(室)まで



*料金は航空券の空席状況などにより
変動いたします。